

栄村高橋村長に聞く

出席：高橋彦芳、福井典子、前沢淑子、角瀬保雄、石塚秀雄

石塚 私達の研究所は非営利・協同、特に医療や社会サービス等の分野でいかに非営利・協同組織が機能を果たせるかということの研究テーマに掲げ、1年半前に立ち上がりました。その中にいかに地域・社会サービス等が新しい形で発展できるかどうかというテーマがあります。栄村は非常に有名になっているわけですが、当研究所の独自のスタンスで栄村の高橋村長のお話を伺ってみたいと思います。

栄村がすごく注目されていて、また4月に「小さくても輝く自治体フォーラム」の集会在長野県であると聞いております。

前沢 もう3回目ですね。最初は栄村で、第2回が阿智村。全部、長野県（笑）。

石塚 外から見て、栄村がどういうことで期待されているのでしょうか。

高橋 なぜ「小さくても輝く自治体フォーラム」をやったかということ、市町村合併は避けて通れないとか、多くの町村長や議員の方がたがおっしゃるんですね。そうすれば政府の言いなりに合併しなくてはならないことになります。地方交付税が減らされると財政的に小さいところは立ち行かなくなるから、合併は避けて通れないということなんです。しかし、今の憲法の下では、地方交付税は交付税法で定められていて、個人でいうと憲法第25条の最低限度の文化的生活を保障されているのと同じように、自治体にも一定水準の自治を保障しています。それなのに、自治体の側からみんな避けて通れないなどと云うのは如何にもなさげなくて、栄村から自律の提唱をしたのが共感を呼

んだと思います。

今の合併の特徴は、いくつもの町村がテーブルに乗る広域合併です。3町とか4町村が市を中心に合併させられるわけです。言ってみれば多極型合併です。多極型合併の難点は、それぞれの被合併町村には特性があるが、4～5町村集まると特性が消されてしまうことです。

この辺では、飯山市と木島平村・野沢温泉村・栄村が合併グループです。栄村は最初から話に乗らなかった。木島平はスキー場の問題がネックになったんですね。スキー場は新市では関わりをなくすることになった。しかし、木島平ではスキー場は村おこしの中心になってきた事業で色々深い関わりもあるし、すぐに行政が全部撤退は出来ない事情があり、そういうことであれば一緒にやっていけないからと、合併協議から離脱して合併しないということを決めた訳ですね。ですから今は野沢温泉と飯山市、二つだけになった。一方、栄村では特殊な施策が非常に多いので現在の法律による合併はしないということを決めました。

石塚 栄村のスキー場は木島平のスキー場と較べて、経営はいかがなんでしょうか？

高橋 経営は良くないのですが、木島平ほど大きくないのです。村民スキー場ということで作ったわけで、営業スキー場ほどのスケールはありません。利用者が村民くらいですから、スキー場は採算がとれないです。ただスキー場でもないと冬は観光客などよそから人が来るということはない。約半年ぐらい、外との交流が非常に少なくなる。

スキー場は多少でも外から人を呼び、村の中での人の動きとか刺激を与える効果というものがあるわけです。スキー場で経済的な利益を上げるといことはなかなか難しいです。

前村長のときに、都会の子供と農村の子供の交流センターということで、スキー場へ行く途中に「トマトの国」というのがあります。農林省サイドのコンサルタントの指導を受けた自然休養村事業ですが、あそこもずっと赤字だったのですが、スキー場が出来て、ようやくペイするようになりました。これがスキー場の効果でしょうか。

しかし、スキー場自体は、今ようやく収支赤字を3000万円まで落としたところですよ。リフトしか収入がない。それとレストランがあるのですが、みんな食べ物リュックサックの中に用意して来て利用しません。だから赤字が3000万切れないう。今後の方法としては、いかに夏場に使うかです。**福井** 確かに、スキー場のホールが夏場は閉鎖では会場がもったいないですね。

高橋 夏場にも結構使うのですが、お金になる使い方というのはあまりない。そこで都会にあるようなセレモニーセンターや法事、結婚式に使う計画をしているが、全館使って4万円です。月に2〜3回貸してもたいしたものではないが、役割は果たしているんです。

財政の自立計画では、いかに特別会計に一般会計から補給しないようにするかです。事業会計10の特別会計で、一般会計繰出しは1億8000万〜2億円くらいです。

下水道事業は農林省サイドの農村集落排水事業を奨励され、3ヶ所計画したが、森宮野原の駅周辺120世帯を実施したんですが、栄村としては密集している地区ですが、なんと13億円かかった。一戸あたり1000万円超えたんです。あと2地区を一戸あたり1000万円もかけて下水をやると、それだけで財政が潰れるので、あとは合併浄化槽に変更しました。

それから上水道ですがね。湧水を使った簡易水道なんですけれど、下水が始まったら簡易水道を統合して大きくしないと水量もたない。今まででは、栄村は水道料が非常に安いんですね。一立方メートル42円くらいですから、普通は200円近くしますんで1/5くらいでやっているんです。そこ



でももう少し上げて一般会計の繰り入れを圧縮することを考えなければならないのです。急激にそうもできないが、事業会計ですから自立の方向でやる努力をしています。

村営バスも運行しています。こういう広い村ですから結構人の輸送にはお金がかかります。保育所の送り迎えも、村がやってももちろん無料です。それから小中学生の輸送もほとんど村がやっている。秋山郷から往復80kmもあるので、父兄がお金を出してというわけにはいきません。交通対策費も大体年間5000万円くらいかかっています。村営バスは一定の料金は頂いています。

除雪費は道路除雪だけで1億2000万円くらいかかります。それからお年寄りの住宅の屋根の除雪にも1200万円くらいかかります。

村営診療所の医者は、日本人はきません。今は台湾人16年、その前は韓国の先生が10年と、ずっと外国人です。日本人の医師がいたこともあるんですが1年半か2年でした。それもいらっしやると必ず医療機器を欲しがります。昭和40年代の後半だったと思うんですが、例えば、回転式のレントゲンを買ってくださいとか、胃のファイバースコープを買ってくれという具合です。当時、津南病院にも無いのに、買わないとどこかにいっちゃうんで買うわけです。

石塚 お医者さんには、現在、村からなんらかのお金を出しているのですか？

高橋 今は出していません。いまの医療機器の話は日本人の話です。そうやっても1年ちょっとでいなくなったりします。せっかく買った機器も半年使ったにすぎなかった。その次に東京から来た医者は、レントゲンを全然使わなかった。ファイ

バースコープも使わなかったです。

石塚 今、村の医療というのは基本的には一次医療という位置付けで、少し複雑なものは遠くのところへ行くのですか？

高橋 そのとおりです。しかし、医師の報酬は高いのです。外国から出稼ぎにきているのだから、そんなに安くないのは人情だと思います。年間2400～2500万円かかる。今は3000万円くらいするんじゃないでしょうか。今の先生は、「私は10年いて村長の苦労もわかるので自立がしたい」ということで、今は自立しているんですよ。それまでは公務員だったのです。医者とすれば経営くらいはしてみたいというので勤務医制をやめて公設民営ということにしました。今のレントゲンもみんなその医師が買ったものです。ただ、困ったことに今までは看護婦が必要とさかんに言っていたのが、今度はいらなくて言うのです。自立するからには公務員の高い給料を払ったのでは経営が成り立ちませんというわけです。いらなくていわれてもこっちも困るのですが、いらぬものはしょうがないから、福祉の方へ看護婦を回しました。

石塚 役場のすぐそばに老人福祉センターがありますが、6家族か7家族いらっしゃるんですか？

高橋 夫婦が2家族、独身が3人です。住宅・ショートステイ、それとデイサービスを組み合わせたB型というんだようです。ショートステイも8床ありますが、満杯になったことはない。飯山市からも来たりしています。職員対応では下駄履きヘルパーにも応援してもらっています。正規職員では一晩勤務すると二日間休暇を与えなくてはならないということになって職員の手当ができなくなるので個人の下駄履きヘルパーに応援してもらっています。

福井 下駄履きヘルパーというのは、何人いらっしゃるんですか？

高橋 登録した人は118人。その人たちが随時正規職員に一人ずつ付いて、繰り返しをしております。

福井 ネーミングが良いですね。下駄履きヘルパーだなんて。親近感があってサッと入ってくれる感じ。

石塚 下駄履きヘルパーの方自身は、自分をボランティアと思っているのでしょうか？それとも有

償ボランティアと位置づけているのですか？

高橋 二足のわらじです。ボランティア的な仕事もします。例えばこんにはコールをやるとか、弁当を届けるとか、色んなサービスがあります。そういうのはボランティアで、昼間に長時間やってもらうときには報酬は支払うけれどもほんの少しです。でも、介護保険の仕事をするときには、もうボランティアじゃなくて専門家という扱いになります。例えば、家事支援は1時間に1000円です。身体は1500円。夜間ですと5割増します。けれども、ケアマネージャーが1時間と言っても1時間ではすまないですね。村の人だから掃除もやったりおしゃべりもしたり、結局3時間もいてきたなんていうのが普通です。おしゃべりなんかはメニューにはないし、身体なら身体しかメニューにはないのですが、実情はそれだけで帰るということはほとんどない。実際は倍くらい時間がかかるわけです。まあ、現在のところ下駄履きヘルパーの制度はうまくいっています。1号被保険者の介護保険料も1950円で長野県平均の60%位です。

石塚 ひと月の下駄履きヘルパーさんの収入はどれくらいですか？

高橋 最高で6万円くらいですね。しょっちゅうあるわけではないので、出たときにきちんと補償すれば、月にいくらになければならないというわけではない。専門でヘルパーをやっているわけではなく、百姓をやったり、勤めたり、キノコ栽培をやっている婦人もあるように、みんな仕事があるわけ。だからヘルパー専門という人ではないのです。

社会福祉協議会が事業者です。だから「何々さんはAさんBさんのところに行ける？」「行けます」という調子ですから、定収がなければどうだということはありません。ただ行ったときは専門的にやるということですから、きちんとやらなければいけないということです。

福井 私のところでもヘルパーステーションをやっていますが、ヘルパーの数が少ないので色々な人が介護に行っちゃうわけなんです。ところがこちらはプラスボランティアみたいな和やかな雰囲気、同じ人が介護に行くわけですよ。

高橋 まあ、大体同じ人が行きますね。知ってる人だからこそ嫌だという面もある。下の処理まで

となると、となりのかあちゃんではちょっと敬遠されるかもしれません。だから村でも講習を4回くらい講師を呼んでやってるんですよ。教科書代だけは受講者に出してもらおうが、あとの講師代などは村で持ちます。よその村はやらないから、隣村からも来たりします。長野あたりへ行ったら、民間でそういう資格をとる場合は10万円位かかるのです。

前沢 かかりますね。あれで業者は儲けるわけですから。

高橋 ある単位は私でもいい講義があります。総論部分ですね。「隣人に好まれるようなヘルパーでなければ本物じゃないよ」と私は説いているのです。

福井 介護度の高い方とか、寝たきりの方はいらっしゃるのでしょうか？

高橋 介護度はあまり高くないです。

福井 来年の介護保険の見直しで、要支援や介護度1をヘルパー派遣の対象にしないということになると、大変な問題だなと私は思っています。栄村でも、せっかく和やかにやっているのに。

高橋 保険料が1000円台は長野県で栄村しかありませんね。平均は3200円です。

福井 安いですね。うちの渋谷の方なんか3700円くらい。もう、どんどん自己負担を上げていきますからね。

高橋 結局、家事支援が多いのではないかな。身体でどうにもならない人は施設に行く。栄村で施設へ行っている人は20人くらいです。1号の被保険者は1100人いますけれども、そのうち施設に行っている人は20人かそこらですから、比較的行かないってことですね。施設が遠いということもあります。だから保険料が安い。施設介護が盛んになると、そうは行かないでしょう。

石塚 今度新しく民間の特養が出来るという話がありますが、こういう動きに対してはどういう評価をしていらっしゃるでしょうか？

高橋 補助金がどうなるかで実施年度は変わりますが、もう決まってはいるのです。もともと民間が純粋に来るわけではないのです。いままで全部広域連合で協同して作ったのです。もう7市町村の中に6施設ある。栄村には無いので、順番からいうと最後に栄村になったわけです。今ま

では公設公営です。当然今度も公設公営でいい筈ですが、いま長野県下では、民設民営に変えてきているんです。既存の施設も更新時期にはそうなります。私どもの広域圏でもこれからは全部が公設公営はやめて、民設民営に移行したいということになったのです。

石塚 それはどこがそういうことを言っているのですか？

高橋 それは広域連合の仲間です。圧倒的にそうになっていて、議会の方もそういう傾向になっているのです。ただし民設民営になれば、民の方は経営問題があるから入居者の負担が違ってきます。だからそれを調整したり抑えるための補助金を出すということにしています。

石塚 抑えると言うのは、入居費を安くさせるとか補助金を出すということですか？

高橋 そうそう。施設が、公共部門と個室部分と分かれるのです。国の補助金は公共部分しか出さない。廊下とか事務室とか医務室とか食堂とか、そこだけに限る。部屋は自分のアパートと思いなさいというわけです。厚生省は償却の基準も示してあって、一ヶ月どのくらいで20年間で償却していきなさいというような指導がある。広域連合では色々議論したのですが、建設時に最大支援は1億5000万円にしてある。そして、個室の部分の費用負担をどのくらい下げられるかをプロポーザルの条件の一つにしてあるのです。

石塚 その見返りというのは？

高橋 厚生省の基準によると室料大体月額5万円くらいだそうで、その部分を5万円ではなくて、何万円に下げられるかということですね。平成18年に来るという社会福祉法人は、2万円という線を出しているんですね。今の公設の一部負担にプラス2万円ということになるわけです。このプラス部分の2万円がね、ちょっと困るんじゃないかというんですけれども、これから新しく出来るところはみんな個室になるんだから我慢してもらおうというわけです。

栄村の人もみんな既存の6施設に入る資格はある。広域の中で割り振りするので、栄村の人だけが入る施設ではない。これから新たにどういう人を入れるかということになると、同じ条件じゃなくなるのでちょっと難しい問題ではあります。

「私は4人でもいいから、安いところが良い」という人もいますし、個室がいい人もいるのでこれも広域の中で調整するしかないと思う。これからは全部が個室で、その部分は全部補助金の対象にしない。ところがその補助さえ今年削ってきているんで、平成18年に施設が来るか来ないかちょっとわかりませんが。

前沢 ホテルコストですよ。

高橋 栄村は受ける側としては、就労の場所ともみなして70床で職員46人は栄村から採用させるつもりでいます。それと栄村で間に合う食材を供給したいと思っています。

また栄村は用地とアクセス道路、それと水だけは無償で供給します。用地と道路は、どの広域もその所在の町村が負担しています。水は栄村だけですけれど、たまたま、その場所に水がいくらかもあるんです。

福井 そうすると特養ホームの待機者というのは、いらっしやらないんですね？

高橋 待機者はいます。200人くらいいるんです。申し込んでいるけれども、いざとなると「え、こんなに早く来たんですか。私はパスでいいです」という人もいないわけではありません。

福井 厚生労働省に行くと言われるんですよ。待機者は23万人だけど、本当にはそんなにいないって。

高橋 申し込んでおかないと心配だから(笑)。そういうことで本当の待機者というのが何人なのかはよくわからないが、栄村は3人と聞いております。いや、栄村だけではなくて7市町村共通の施設ですから、審査を受けている人はたくさんいるのです。

石塚 特養で40人くらいの雇用が見込まれていますが、村全体としては雇用を増やすということについて、何か具体的に政策はありますか？若い人の雇用のためとか。

高橋 起業も考えないと、雇用策というのはそんなにはない。最近、土木建築も仕事がなくなってきている。森林組合、役場、農協、郵便局しかないというのが実態ですから、あまり雇用先がないのです。反対に一昨年4月、これは栄村と津南町ですが180人も失業した。富士通関連の今まで誘致した企業がみんな撤退した。もちろん富士通直

営ではなく、下請けの下請けみたいな会社ですから、親方がどっかにいっちゃえばモロに駄目になることはわかっていたのですが、まさかこれほどきれいにやめるとは思わなかった。

その後、ミネラルウォータープラント会社が入った。三井物産が大元締めで、栄村の工場は山梨と長野と新潟が供給範囲だと聞いています。現在村からの従業員は3人くらいです。

角瀬 ウォータービジネスですね。

高橋 これからの雇用は、ただ誰かが雇ってくれるかなというだけではもう難しい。今まで全部それに慣れていて、弁当持っていいたら誰かが仕事を下さるかなという考え方だったのです。

前沢 起業が必要ですね。

高橋 それから蕎麦工場が4人くらい雇用している。新潟から進出してきている蕎麦屋です。これは一番近い信州の栄村に出させてくれて来たのです。関西の方に行くと、信州蕎麦でないと並ぶ場所まで違うというのです。新潟県松代(まつだい)では駄目なので、最も近い信州の栄村で製造したい。そういうわけで去年工場を作って女性が3人、工場長になる男性が1人が採用されました。

福井 しかし、村長はすごいですね。3人とか今度工場長になるとか把握してらして。人数が少ないとは言え、そういう首長さんは中々いないですよ。

高橋 あとは水です。1分間8トンも湧出している所があります。しかし工場みたいなのを作ってペットボトルを作るのも、1日1万本作らないと駄目なんですって。毎日1万本を売るシステムがないと出来ないの、缶メーカーとか色んな方が来て、研究させてくださいと云っているけれども、中々まだ答えが出ていません。

石塚 村の人口は徐々に減っていますが、歯止めを掛けるような方策とかはありますか？若い人を連れてくるとか。出産祝い金とかはあるようですが。

高橋 子供が生まれませんね。

福井 なぜ生まれないのでしょうか？

高橋 栄村には25歳から39歳までの独身の男性は36人、女性が21人います。だから全員で57人です。独身者に対して、誰もメッセージを出す人がいない。親も昔みたいに「所帯を持って」なんて言わな

い。友達も言わない。親戚も昔みたいにちょっかいを出す人がいない。それから行政が作ったブライダルサポーターがありますが、取っ掛かりがない。どうやって独身の彼らにメッセージを出せば良いのか全然わからないし、向こうから言うこともない。言うてくるのを待っていたって、誰も言うてくるわけじゃない。結婚相談員だからと自分から言おうと思っても、どうやってやればいいのかわからない。こんな状況です。

角瀬 東京なんかだと「できちゃった婚」っていう形で結婚して子供が増えるけれど、この村の場合にはそういうのはないのですか？

高橋 それは中々ないですね。どういうメッセージを出すともっと結婚して子供が増えるのかがわからないですね。私が手紙でも出してメッセージを送ったとしても、村長が余計なことをするというメッセージになったのでは効果がない。でもね、彼らは全く結婚したくないと思っているわけじゃないと思いますよ。

角瀬 村が自立を目指して、一人一人の村民も自立を目指すようにするのが難しいですね。

石塚 村からの色々な情報は有線という話が先ほどありましたけれど、インターネットは活用されてますか？

高橋 私は全然そういうものをいじらないので駄目なんです。若者に任せていてね。

角瀬 若い人はメールとかね、お互いに知らない人が知り合って結婚するとか。

高橋 そういう武器を使わなきゃならないね。

石塚 若い人はああいうのは得意なので、双方向でやるにはかなり有効ですね。

高橋 日本は少子化でこれからどんどん人口も減っていく。どうして若者がそうなるのかと。都会も田舎もみんなそうなる、しかも平気であるからこれも困った話です。

前沢 この57人の若者は、村内で働いているのでしょうか？

高橋 村内でも働いているが新潟の津南町や飯山市にも行っています。一人暮らしというわけではないのです。ただ家にいるだけでは、いつまでたっても男でしかないし、女でしかない。お母さんにもならないし、お父さんにもならないし、おじいさんにもなれない。人生をどう考えるかということでしょうか。

石塚 独居老人・独居青年が増えて、ますます人口的には縮小していく図ですね。

高橋 2025年まで推計はしています。25年後には1250人くらいになる。

角瀬 持続可能な村ではなくなりますね。どうすればいいのか。

高橋 そうはいつでも、行政的に人口を増やす政策は、そんなに簡単には出てこないわけです。そうすると生活可能な面積を狭めるしかない。栄村27000ヘクタールの中で、暮らしている面積というのは3000ヘクタールくらいです。人口が減るとそれを狭めないと、除雪とかいろんなことをやる



うといっても不可能になるわけです。どうしても可住面積は少なくなってくる。それを集落整理という形でやると、これは問題が出てくる。行政的にやろうとすると抵抗もあるし、とんでもない話だと言われる。前にも国の政策として、山村地域振興の事業の中で集落移転というのがあって、小さな集落は移転して大きな集落に行くというのがあったのです。しかし、移転だけしても農地が伴わない。その地域で暮らすことが出来ない。勤めれば別なんですけれども、そんなに勤めるところもない。一旦移転したけれども、また山に帰っちゃうんですね。津南町でもそういうことがあって、集落移転というのは、やっても元に帰っちゃう。仕事もないし、高齢になると雇ってもらえないし。夏山冬里って感じで、冬は雪があるんで里に行くと、雪が消えると山に帰る。山に行かなければ農地もない。山では山菜を採っても暮らせるわけだから、自分の農地や山のあるところに帰ってしまう。

石塚 シミュレーションですと、どんどん村の予算も下がっていきますし、人口も下がっていきますし、中々厳しいシミュレーションのようです。

高橋 今回作った「栄村将来像モデル」は、平成20年を目標にした、財政の枠組みを中心にした村の新しい構えを一旦作るという目標です。もちろんそれでいいわけじゃないので、そこからもう一回振興基本構想というのを作らないと自立できないとか、真の自立像にはならないのです。それなのになぜこういうモデルを作ったかと言うと、村財政の交付税率は55%くらいになっていて、非常に交付税の割合が多い。そのうえ高齢化で税収は減ってきています。こんな中で交付税を削られると、財政構造というのも作り直さないと、決算赤字が出る可能性が非常に大きい。決算赤字を毎年出して自立なんていっても、意味がないわけです。決算赤字を出せないということになると、国がどうやってくるときに、どう対抗出来るかという構えを作らなければならないと思っています。その上で縮めた分を何で増やしていくかということになる。それは生産あるいは産業創造以外にはない。骨太改革という国家財政のもとで、地方財政をどんどん切り詰められるもとの、栄村はどういう姿で対抗できるかというのが今のモデルなの

です。そうしたら5年後に1/3くらいに財政規模を減らさなければならないことになったわけです。

平成15年は、一般会計は30億円だった。そのうち公債費が8億3000万円です。住民生活に直接使う金は21億7000万円です。一方、バブルの前は栄村の予算は20億円でした。昭和60年頃の人口は3200人で、今の人口と比べたら600人も多いわけですし、今後も人口が減るわけですから、20億円くらいで工夫すればやっていけるかなというのが私の出したテーマです。けれどその中で私が原則として出したのが、保健医療・福祉・克雪対策それと教育、これは現状を維持しておくことです。あとの農業を含めて経済行為とか一般的な補助金だとかは極力削減する。一番重い人件費も21%削減する。

議員の給料も45%削る予定です。栄村の議員は16人です。県下では栄村ただ一村だけが、法定議員数を守ってきました。他の市町村は全部削っているんです。

この栄村将来像モデルは削る一方で厳し過ぎるという意見があります。しかし、政府の骨太構造改革というものは地方へこういうことを押し付けるのだという認識が必要だと私は思います。ここを新しいスタートとしてどう展望を切り開いていくかがこれからの闘いなのです。

経済活性化では、特養に45人の雇用増を予定しているが、本当に新しく見つかるかどうかということもわからないわけですよ。一口に45人見つけるといっても、この過疎の村で45人一挙に見つけるのは難しい。それじゃUターンとかIターンとかすればいいのだけれども、いよいよになると給与はいくらくれるとか、色々あってそんなに簡単に45人枠に競争が起きるほど来るはずはないと思う。そういう場合には、役場の職員を出向させるということも考えなくてははいけない。その場合、社会福祉法人が役場の職員の給与水準は払わないだろう。おそらく8割払えば良い方だろうと思う。それでも8割稼げば給与費全体では節約できる。色んなことをもっと考えなくてはなりません。ワークシェアリングもする。55歳くらいになったら3割くらいの時間早く帰って介護するなり、親御さんも年寄りになって農地も荒れているんだから家に行って百姓をやればいいではないかと。

そのかわり給与は3割くらいカットされても良いじゃないかとね。3割カットされると本給だけになってしまいます。手当が3割あるのです。本給だけでも貰って百姓をやっているのだから、いいのではないのでしょうか。そういうのは選択性も成立ちます。

角瀬 統計を見ましたら、兼業農家が少なくなつて専業農家が増えていますよね。

高橋 それはね、おじいさんおばあさん百姓だからです。他に仕事がないと専業になるわけです。実際の専業農家は、10軒あるかそこらでしかない。おじいさんおばあさんは百姓だけやっているのだからそれが専業になる。

役場の職員はほとんど兼業農家です。みんな家では農家をやっている。日曜とか土曜にはみんな百姓やっているわけです。だから今度3割給与をカットするから堂々とその3割で働けばいいだろうというわけです。午前8時半に出てくれば2時半には家には帰れるのです。

福井 みなさん、なんと言っていますか？

高橋 いいって言う人もある。選択性ですから命令でやるわけではないが。

前沢 そうすると朝の農作業をしてから出勤すれば良いですよ。

高橋 非常手段というのは、そういうこともやるんだよ、と。リストラをするとは言っていない。けれども、公務員法上そんなことが出来るのかということがありますね。

石塚 兼業とかは所得のときにどうするんですか？

角瀬 国立大学の先生も堂々と金儲けをやっているじゃないですか。両建てで。

高橋 実は今、公務員法の大改正に入っているわけですよ。公園管理とか清掃は公務員じゃなくて良いよとか、公務員の削減案を盛んに総務省が出しているわけです。

石塚 実態としては、臨時雇いの人がずいぶん増えていますか。

高橋 今は20人くらいいます。それを入れると住民25人に1人くらいが職員になる。人口2650人に対して110人の職員がいる。臨時を入れればですよ。

石塚 公的セクターで働く人が多いわけですが、

特に栄村の場合は栄村振興公社が17年の歴史を持っていて、公社の役割が意外と大きいように思います。今後どのようになっていくのでしょうか？

高橋 一般に、第三セクターはどうにもならないほど借金だらけになってるけれど、うちの公社は2,000万円の運転資金がへこんだりすることはあるが、借金はありません。一般会計から繰り入れるということも、17年間一銭もやらずにやってきているんです。村の職員に較べて若干給与が低いということはあるのですが、ただ、公社は超過勤務が多いので、手取り金額はそんなに低くはないのです。正規職員は17人くらいですが、その他臨時・パートを含めると30数名は働いています。

公社の場合には、地域経済の担い手という役割を果たしています。例えば、公社の接客用のビールやお酒は、必ず地元の酒屋から仕入れるんですよ。米も野菜も地元です。総支出は3億円くらいで、その71%くらいは地元から調達です。一戸あたり22~23万円を配分したことになるのです。唯一、外貨を稼ぐ公社ですから、そういう面では非常に良くやっている部署ですね。

その他にも道の駅には物産館があって、働く人数は5人ですが、売上が約1億円の収益を上げていて赤字ではないです。建物自体は栄村のもので、経営だけやってもらうという形です。物産館は有限会社で、栄村と栄村森林組合と栄村商工会が出資し、あとの仲間には入れないのです。農協も入っていたのですが、よそと合併したから出してもらったのです。

5%くらいの配当はずっとしていますし、村へもだいたい年間240から250万円くらいは施設使用料として入れている。でも村はそれを全然使わないで、物産館は物産館、公社は公社で、それを積み立てている。というのは、不時の支出に備えているわけです。秋山郷に苗場山観光株式会社というのがあるのですが、これにも村が50%以上出資しています。これもだいたい年間300万円くらい入れてくれるけれども1銭も使わない。みんな積んである。何時どんなことがあるかわからないからね。

角瀬 公社の過去の累積赤字が1000万円ほどあるというのは、解消はしていないのですか？

高橋 運転資金2,000万の範囲ならば直ぐ解消しなければならぬというわけではありません。公社は今までで運転資金が最低600万円くらいになったこともあったわけで、それが減ったり増えたりする。運転資金は最低300万円あれば、一時借り入れも出来ますから何とかありますが、できれば1000万円は確保していただきたいところです。

角瀬 いろいろと勉強させていただいたり今日のお話をうかがって、一つの地方自治体のモデルを作り上げたことには敬意を表したいと思います。今回、ぜひ伺いたいと思ってきたのは、栄村モデルは、やはり自治体主導型の村づくりということですね。自治体がこれまでのように手を出し足を出すことが次第に出来にくくなってきたときの対応はどうするのでしょうか？やはり一人ひとりの村民の経済的な活動が基盤になると思いますが、その自発性をどう育てていくかが、今まさに求められている、その転換点に差し掛かっているのではないかと思った次第です。

高橋 そうですね。今、栄村の自立モデルのなかに、行政システムを変えるというのがあります。村には今まで7つ課がありました。中央集権の縦割りにあわせて補助金などのためにそうなっているのですが、これをもっと集約化して、チームプレイをしようとしています。

それとともに、集落自治を強めようとしています。集落ですから強制的に手を入れるわけにはいきませんが、行政を7課から4課に縮めるなかに必ず集落担当者を置く。集落は全体で31あるといっても、主だったところは20くらいなんです。20戸、30戸、70戸といったところでは、もう少し自治をやってくださいよと。集落の自治組織モデルをこちらから提案して、集落自治を固めてほしいと思っています。というのは、田中知事もいまコモンズからの出発としきりに言っています。集落というのはそれぞれ違うわけですが、栄村の秋山郷は農地は少ないが何も栽培しなくても山菜だけで年間400万くらい現金収入があるという農家もあるわけです。言ってみれば同じ町村のなかにあってもそれぞれ資源が違うわけですが、封建時代のような押さえつける共同体ではなくて、集落の自治で地域の共通資本というように農林業を捉えていくわけです。先生がおっしゃったように、今まで

は行政が主導できたのはお金があったからで、これからはそれがなくなるわけです。これからは支援も現物支給になるでしょう。幸い栄村には職員が村民25人に一人いる。もっと職員の直接行動で給付するようにするわけです。栄村の田直しや道直し、下駄履きヘルパーというのはある意味で現物給付のシステムを作ってきたわけです。お金を配ってやるシステムではないのです。必要などころに職員が行って体で給付する。体で給付するというのも変な言い方かもしれませんが、まあ言ってみれば機械力も技術力もあるわけで、田直し・水路を直す・道が壊れたという時は、補助金を出してやってくださいではなくて、地域の住民と役場の職員が重機を持って行ってすぐに直してしまうのです。そのくらいの能力は栄村にはある。むしろそういうことでお金を使わないようにする。集落もそういうことを自治的に迎え入れて下さるだけのシステムと能力を持ってほしいというのが集落自治です。いままでは集落に区長さんという人がいて、一人だけに負ぶさっていたわけです。区長は、栄村の場合は村の非常勤の職員になっています。だから区長には結構高額の報酬を支払っているのです。集落は村の下請け団体になってしまいました。集落自治組織というものに力を入れようと考えているのです。

各課に集落担当者を置いてそこが窓口になり、その課のチームを集落のあることに対応させたり、集落もそれを自らの力で利用したり、そういうことをしなければならぬ。集落の再生をしないと、特にこのまま合併したら集落は没落してしまうわけです。自治体の本体、行政主体が遠くへ行ってしまえば、いままでは面倒を見られても、できなくなってしまう。栄村はそれが怖いから、今すぐ合併をしないとやっているわけです。

角瀬 村長はこれまで行政と住民のコラボレーションというのをずっと言ってきたわけですが、行政はそれなりに実績をあげてきたと言えます。もう一つの住民の方が、これからどれだけ力を発揮できるかということですね。

高橋 住民はかなり高齢化していますから、難しいところですけど。そうは言っても、地域の公民館などに若者はいるわけですから。

あと、今までの集落というのは、じい様がやっ

ているだけなのです。若い人や婦人は集落を動かす力に入っていなかった。それは栄村だけではなくて農村がほとんどそうなんだけれども、今の若者は農村の仕事を嫌がるんですね。また集落はそういう仕事を日曜日にばかりするのでね。

前沢 それではお休みがなくなっちゃいますね。

高橋 せっかくの休みなのに、今日は集落の用水の泥上げだとか次は消防水槽の泥上げだとかになる。たまの休みになると仕事ばかりでよくよく嫌になる、ということです。今までの伝統的なやり方で集落を動かしているだけなんです。私は他にもやり方はいくらでもあると思います。例えばご飯前に2時間くらいでぱっとやってしまうのです。あるいは、賃金制にしてもいい場合があります。とにかく伝統的な習慣から抜け出さなければならぬのです。若者はいまのままでもいいとは思っていないから、集落のあり方を見直していかなければならないと思っているわけです。

福井 いろいろと栄村の施設などを見てまわって、村長のおっしゃったことを身近に感じる事が出来ました。私は東京・渋谷区なんですね。渋谷区の自治体労働者に聞かせたいくらいです。

ところで私も角瀬先生がおっしゃったように住民自治、住民組織をどうやっていくのかなと思っていたのですが、集落の再生のお話を聞いてなるほどなと思いました。

いま、全国的に高齢者や女性が元気だと聞いていますが、ここでの女性の活動はいかがでしょうか。村長と直接お話し合いをする機会などがあるのでしょいか？

高橋 中年の女性は元気が良いのです。実はこの将来像モデルは暗いこといっているのもその女性たちです。私は明るさは自分で生み出すものです。だといって弁明しているところです。

福井 そうですね。

高橋 今年度、県から二人職員を派遣してもらいました。一人は女性で生活改良普及員です。その彼女は、50代近いくらいなので普及員としてもベテランになります。私は彼女に村の女性たちとエゴマドレッシングを作ってほしいと言いました。

エゴマといえば、私の少年時代はここはエゴマの産地でした。

最近、ドレッシングの中に油があると、脂肪過

多になって太るので油ぬきドレッシングが出回っているとききました。実はエゴマ油はそうならないんです。そこで彼女に1年でエゴマドレッシングを作ってくれと頼んだのです。

石塚 いわゆる地場産品ですね。

高橋 とにかく、彼女と村の女性たちが1年でエゴマドレッシングを完成させました。その彼女もいろいろと働きかけてくれたし、村の女性たちもそうとう活動するわけです。感激しましたね。20代の若い女性たちはエゴマクッキーを作って販売し出しています。

こういうことは地域経済に決定的な影響を与えるわけではないが、しかし、こういう動きで勢いがついてくると地域は活性化してくると思います。

前沢 活性化ですよ。

高橋 今日はエゴマの大会があるとかで、栄村の女性も7,8人、確か岐阜にっているはずですよ。

前沢 エゴマクッキーが1等になるかもしれませんね。

高橋 それはどうかな（笑）。

福井 お話を伺っていると、村長さんには深刻な悩みがあまりにならないみたいですね。若い人の結婚しないという悩みはあるとしても、国政がこんなひどい中で、県知事はいろいろと協力的かもしれないかもしれませんが、感心しました。大変前向きですよ。

高橋 まあ、後ろ向きになってもどうしようもないですからね。勢いは女性のほうがあります。男性が勢いが無いというわけではないのですが、集団で何かをやるというのはダメですね。でも女性の方は、ドレッシングなどのもの作りをどんどん進めました。とにかく実践力は女性のほうがある。理屈は言うけれど、男性はそのへんはダメだな。

前沢 私はずっと栄村のファンになって通ってきたわけですが、今日村長のお話を伺って、私達が進めようとするまちづくりに、集落自治から学ばなければならぬと思いました。合併がどんな状況になっても、一人ひとりの住民が主人公として、たとえ栄村という名前が将来なくなったとしても生き続ける、そういう未来を描いて活動されていることを伺い、勇気づけられました。

高橋 「集落をなんとかしなければならぬ」と私は議会に意見を出したのです。合併をめぐる、

我々は集落をまわって討論もしたし、アンケートもやってきた。しかし住民は合併するとかしないとか、そういう形で解決しようとは思っていませんでした。それはアンケートの記入欄を見てもそうです。ただし、心配はなくはないということです。

高齢化になっているし、集落に空家も出ていて、これを何とかしなければならないということはみんなわかっている。これを合併で解決しようとか自立で解決しようとか、そういう選択問題ではなく、もっと根本的な地域づくりを考えたいと訴えている、ということです。今、このまま、行政体が広がるだけのような合併をただけでは集落は崩壊してしまう。自立モデルの中で、集落を何とか力づけていくような方向へもうひとつ脱皮していかないと、栄の地域というのは守っていけないのではないかと。だから今回は合併しないで総力でやろうという提案をしたわけです。

前沢 都会との交流は、もっと進める方向なのでしょうか。私自身、ここに来ると非常に癒されるのですが、現在都会では精神的に病んでいる、疲れている人が多いですね。そういう人たちがここに来て、癒されて元気になって帰っていける取組みというのはあるのでしょうか？

高橋 交流はある意味双方の人を元気にしてくれるのです。それから新しい形で私は去年から「栄村名誉研究員」というのを提案しました。シルバーの方でいいのですが30年、40年かけて培われてきたあなたの学識・科学技術を、この栄村に提供

してほしいと訴えました。すると去年11人も名乗りをあげてくれて、6人面接しました。これも感動しましたね。

福井 11人の中から、6人を選んだんですか？

高橋 いや、皆さんあまりに大家過ぎて、どう扱っていいのか困っているんです。物理学者の方が2月にやってきて、委嘱しない前から湧き水を使って水力発電を中学生とやりたいとか言っています。

そういう先生はいくらでもいるんです。千葉大の若い助教授は杉林の菌の研究とか。農芸科学の人とかもいます。

石塚 自然科学系が多いですね？

高橋 それは私がここの資源を活用して何とかしたいと言ったからだだと思います。

以前、秋山郷の中学生は寄宿していたのですが、人数が少なくなって寄宿舎が空いてしまいました。まだ使える建物ですから、そこを名誉研究員の宿舎にしたりミーティングの場にしたりしようと考えています。

これからの都市と農村の交流というのは、自然を保護しながら都市のためにも山村の資源をもっと活用していく形でしょう。山村が高齢化した、若者がいない、ありあまった山村の資源を活用しないまま、合併すれば崩壊する運命にあります。

福井 大変面白いお話ですね。

石塚 今日は本当にお忙しい中をありがとうございました。

(2004年3月29日栄村にて実施)

*以降、栄村の写真は前沢淑子氏撮影



こいのぼり